



書
評

即戦力が身につく 頭頸部の画像診断

編：尾尻博也，加藤博基，久野博文

B5・頁484 2021年9月 定価8,580円（本体7,800円＋税10%）

[ISBN978-4-8157-3031-4] メディカル・サイエンス・インターナショナル 刊

<評者> 山下 拓（北里大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授）



頭頸部画像診断に関する書物は、部位別に分け網羅的に記述されているものが多い。これらの書物は、診断のついている症例を辞書的に調べるには都合がいいが、画像診断を専門としない耳鼻咽喉科頭頸部外科医が、多忙な臨床の合間に読破し、偏りなく画像診断を学ぶのは容易なことではない。また、診断のついでない症例の初見画像をどのように読み解いて、診断や治療方針に結び付けるかを学ぶことにも困難を伴う。一方で本書は、経験を積んだ医師はもちろん、経験の浅い初学者であっても症例を疑似体験しながら、比較的容易に幅広く頭頸部疾患の画像診断を学べるように構成されている。

具体的には、まず年齢・性別および簡単な経過が示され、それとともにキーとなる画像が提示される。ここですぐに診断名を見るのではなく、経過と画像から何を疑うか自分なりに考えた後、画像所見の項目を読むことをお勧めしたい。頭頸部画像診断のエキスパートによる記述には、初学者からベテランまで、どのようなレベルの医師にとっても「なるほど」と思わせる読影のポイントやコツが簡潔に示されており、各症例においてより深く画像診断を学ぶことができる。画像所見の後には診断名が示されているが、引き続いて、その疾患についての臨床上的のポイントや、解剖学的な

周辺知識などの「問題」が提示される。クイズ形式でこれらの問いに答える訓練を行うことで、経験を積むのに何年もかかるような多岐にわたる疾患群を、あたかも実臨床で経験したかのように生きた知識として習得できる。その後には、疾患の概説および鑑別診断と、その鑑別のポイントが記載されている。収められている珠玉の136症例を本書で疑似体験すれば、耳鼻咽喉科頭頸部外科医として診断面において大きく飛躍が期待できるものと考えられる。

本書は、各疾患についての画像診断を臨床上のポイントや鑑別診断とともに、実臨床での思考過程に沿って有機的に学ぶことができるよう構成されている点が秀逸であると考えられる。また本書の特徴として、解剖学的部位別ではなく、入門編、実力編、挑戦編とレベル別に症例が配置されている点が挙げられる。頭から順番に読み進めても飽きずに、また分野に偏りなく学べるようになってきているが、パラパラとページをめくりつつ気になった症例から読んでも多くの学びがある。これから耳鼻咽喉科専門医を目指す医師には必読の書であると同時に、経験を積んだ医師に対しても多くの示唆を与える書物と考える。ぜひ手に取って、実際の症例を診断していく感覚でご一読いただきたい。画像診断力・臨床力の向上に大いに役立つものと思われる。